

第3回日田市中小企業振興推進会議委員発言記録（概要）

日 時：令和3年11月18日（木）14：00～

場 所：日田市役所4階 庁議室

○委員長＊挨拶

- ・ 県内のコロナの状況が非常に落ち着いており、第3回の会議でようやく対面での会議開催となった。第6波の心配はあるが、観光立県として国内の活発な移動を促すような経済対策、景気回復につながるような施策を計画できるといい。
- ・ 本日は、協議事項1点、報告事項1点ということであるので、皆様方の意見を受けながら進めたい。

【協議事項 地方創生推進交付金の事業評価について】

○事務局

- ・ 昨年度までは、交付金事業の評価を日田市総合計画審議会で行ってきたが、審議会において、交付金事業の評価は、各分野に傑出した方々で行ったほうがよいのではとの御意見をいただいたことから、令和2年度の実績分から、分野ごとの会議体で評価を行うこととなったため、本会議で審議をお願いしたい。
- ・ 評価対象事業の内容とあわせて、関連する取組についての説明をし、事業の目的と成果などをもとに書面にて評価をいただきたい。令和2年度に行った事業内容の説明と実施者である日田市として、地方創生に効果があったか、自立性はあるかなどの判断について、事務局から説明しますので、委員の皆様方には、事業について日田市の総合戦略のKPI達成に有効であったかなかったか、書面にて判断していただきたい。

資料「第3回日田市中小企業振興推進会議資料」により、下記の項目について事務局から説明。

1. 地方創生推進交付金の事業評価について
2. 地方創生推進交付金事業実績報告（令和2年度実施分）
3. 創造県おおいたクリエイティブ産業チャレンジ事業
 - 3-1. 日田市ビジネスサポートセンター運営事業
 - 3-2. 女性起業家創出促進事業

○委員長

- ・国から地方創生推進交付金をいただいて、4～6ページの事業を実施したということ。この事業の総合戦略のKPI実績値である創業支援機関による創業者数は58人であるから、目標値の40は超えている。KPIに対して、事業が有効であったと判断できるかできないかということの審議をお願いしたいということです。

○委員長

- ・Bizサポとの連携は、商工会議所・商工会はどんな状況ですか。

○D委員

- ・連携という点では、個別の事案で連携できる点もある。現在、創業講座ということで、日田市が特定創業支援事業の認定を数年前から実施しており、その関係で、商工会議所では創業講座を7回目でしょうか、実施している。

○J委員

- ・商工会としても、創業塾で勉強させていただいて、身近な専門家というような関わりである。丸一日かけて津江や大山の事業者を回って支援を行い、中長期的に支援に取り組んでいる。

○委員長

- ・金融機関としてはBizサポ等との連携はどんな状況ですか。

○A委員

- ・新規創業者について、案件と一緒に協議したという形で実際、市の女性若者起業支援資金での金融支援という形、なおかつ経営の相談についても条件変更等相談がBizサポから来るとい流れもできている。

○委員長

- ・中小企業家同友会では活性化条例等もいろいろな御尽力いただいたが、利用する立場として何か感想ありますか。

○F委員

- ・Bizサポのコーディネーターの方々も同友会に入られており、経営指針づくり等の年6回の講座等で参加していただくなど連携している。

○委員長

- ・Bizサポのコーディネーターのうち2名は、よろずのコーディネーターでもある。市役所とは、よろずコーディネーターを派遣してセミナーと相談会ということで、隔月実施するなど連携も取れているという状況にある。

○E委員

- ・創業者数58名が実績とあるが、Bizサポの講習を受けて創業した人が20名ということで

すか。

○事務局

・58人というのは積算になっている。

○E委員

・創業講座はH30が23回、R1が31回、R2が6回。創業者数はH30が18人、R1が20人、R2が20人となっている。R2は6回で20人達成出来たというのは、どういった働きかけがあったのか。

○事務局

・働きかけというよりも、コーディネーターの先生方が相談者に対して、事業を行うにおいては大変厳しい時期の中でも、創業計画、融資、創業に対する意志について、断ち切れることのないように、サポートしていただいたことが数字につながったのではないかと。また逆に、この厳しい時期をチャンスと捉えて、創業に向けて頑張っていこうという創業者の思いが強かったのではないかと考えている。また、コーディネーターの先生方と商工会議所、商工会との連携が図られていたのではないかとみている。

○委員長

・事務局にはいつも申し上げているが、日田市は創業補助金をつくっていない。国東、宇佐、臼杵、佐伯、津久見こういうところは創業補助金を持っていて、今年の創業セミナーは我々、市と連携して実施しているが、参加者が非常に増えている。全国的な事例を聞いてみても、創業意欲を持っている方が増えている。分析は難しいが、コロナの影響は、創業しようという気持ちの方に大分影響しているのではないかと。58名創業を達成された中で、事務局の話では女性起業家創出事業とか別の補助事業を使われた方がいるので、創業補助金ができるといいのではないかと個人的には感じている。

○H委員

・私は創業者部門の委員ですが、1年1か月前に創業して、まさに先ほどの20名の1人である。1年半前に移住してきたが、移居前から市役所にビズサポを紹介いただき、いろいろ相談に乗っていただき、個人ではとても収集出来ないような情報、助成金の制度であるとかいろんな情報をいただいて助かったという、経験がある。

○委員長

・事務局は、先ほど出された意見のうち、事業や施策に対するものについては、関係する部署にもお伝えし、各事業等を進める上の参考としてください。事務局から評価に関する説明をお願いします。

○事務局

・「地方創生推進交付金の事業評価について」の様式の記載いただき、評価をお願いいた

します。

事業ごとに、「有効であった」または「有効とは言えない」のどちらかに○をつけてください。

○委員長

- ・それでは審議を終了します。委員の皆さまは、先ほど事務局から説明のあったとおり、事業評価の提出をお願いします。

【報告事項 専門部会について】

○専門部会長

- ・中小企業振興推進会議及び専門部会の目的や存在意義を確認した。専門部会は、推進会議と連携して中小企業施策を中小企業の立場として協議していく。
- ・R1年度に行った市長への提言内容と提言に対するその後の対応について確認した。進んでいるものもあればそうでないものもある。提言したら終わりではなくその後の進捗状況を確認していくことも一つの役割。
- ・大村市への視察について
推進会議や専門部会がどのように運営されているか、改めて大村市への視察を行いたい。行政も参加するので、相互のつながりも構築してもらいたい。
- ・2月に3回目の専門部会を開き、市長提言を行うためのテーマを決めたうえで視察を行いたい。

○委員

- ・質疑なし。

【その他 意見交換】

○C委員

- ・ハローワーク日田の有効求人倍率（原数値）は1.37倍（前年度同月より0.37増加）となり、7ヶ月連続で前年同月を上回りました。一方で、有効求職者数は13%減少している。
- ・特に宿泊・飲食・卸小売の求人倍率が高まっている。
- ・コロナはいまだ先行き不透明なので、応募に二の足を踏む人も多いようだ。
- ・高校生の管内就職希望者の未内定は一ケタとなっている。

○G委員

- ・土日の人出は戻ってきている感覚。

- ・商店街の創業者数を教えてほしい。

○E委員

- ・技術者不足の状況は変わらない。
- ・半導体が入ってこないため、納期に大幅な遅れが生じている。

○B委員

- ・ホーム用家具は堅調に推移している。コントラクト用家具は、高級ホテルなどアップ向けは動いていた。
- ・ここ1か月で、飲食店向けなどが動き始めた。
- ・原材料の値上げにより、業界では製品を値上げするようになってきている。

○H委員

- ・11月3日の客数が多かった。土日は戻ってきている印象。平日は徐々に回復している。

○I委員

- ・まだコロナの心理的影響は残っている。安心はしていない。
- ・飲食店等は、安心はおいしいの認証店という情報発信をしていくことが大事。

○F委員

- ・大分県中小企業家同友会の会員企業においては、やはり人材不足の声が多い。
- ・求人には工夫が必要ということで、広告費用をかける、共同で求人を出すなどしている。

○委員長

- ・事業評価を委員に求める場合は、市としての評価を皆さんに説明する必要がある。そうすることで委員としても評価を行いやすくなるのではないかと思う。

以上

【閉会】 15：30 終了